

現代社会における家庭の役わり

産業化と家庭の問題

第16回 婦人週間

労働省婦人少年局
リーフレット NO. 88

婦人週間とは

家庭は 社会の基本的な単位です
また 人類文化を生み出す源泉です

“家庭”の持つ意義

個人的には

- お互いに 愛情を みたしあう
- いこい やすらぎを あたえる
- 衣・食・住を みたす
- 子どもの人格を つくりあげる
- 老人や幼ないものを 守り育てる
—など

社会的には

- 次の世代を 良い市民として
育て 社会に送り出す
- あす の 働く力と心を養なう
- 国民性を つくりあげる
—など

産業社会は 激しく変動しています
その中で 私たちの 家庭 を
つくりあげていきましょう

昭和21年4月10日に 日本の婦人は
はじめて国会議員を選挙しました この
選挙から婦人も男子と同じく 政治
に参加することになりました

この4月10日を記念して 労働省で
は昭和24年から毎年 その日から一週
間を“婦人週間”として 婦人の地位
をたかめるための運動を主唱してきて
います 今年は その第16回目にあた
り“現代社会における家庭の役わり
——産業化と家庭の問題——”
ということを目標としています

このリーフレットの増刷 転載を
希望されるむきは 労働省婦人少
年局または 各都道府県の婦人少
年室にご連絡ください

日本の社会では いま急速に
産業化が進んでいます

○工場や会社はふえ 商品は大量生産

され 取引きは盛んになっている

○人は 都会へと集まりつつある

○勤め人がふえて 農業をする

人が 少なくなった

○工場などが誘致されて

農村も 都市化していく

○バスや その他の乗りものが

多くなり 人々の行きかゝいも

ひんぱんになった

○娯楽やレクリエーションも盛んで

多ぜいの人が 参加するようにな

った

○マスコミは どんな山奥にも

入りこみ 生活の近代化を進める

こうして国の経済は発展し 生活も
多彩になってきています しかし

同時に 私たちの生活や社会には

のびやかさや ゆとりがうすれ

あわただしい産業社会へと 移り

つつあります——その変化の波が

私たちの家庭にも 押し寄せてきて

います

いま こんなことが私たちの家庭に
起こってはいないでしょうか

○家族の生活時間が まちまちで

食事や団らんを 共にできにくい

○手伝いの人は無く 出前や

御用聞きも 少なくなった

○パートタイムや内職の 募集が

目立ち 働く主婦が多くなった

○みんなが疲れていて ひとりで

いる時間も ほしいことがある

○子どもが 社会の いろいろな

できごとに影響されている

○新しい商品の出回りで 生活は

便利になったが いつも もっと

ほしい という欲望にそそられて

いる

○農業は 婦人や老人に ゆだね

られていく

このようなことがらは 社会の
産業化によって 引き起こされて
いるものです

産業化は 今後も いっそう目ざま
しく ひろがり 進んでいくでしょう
——その中で 私たちの生活の
よりどころとしての「家庭」を
すこやかに営むために 婦人は
どんな役わりを果たしたら
よいでしょうか

主婦として

生産に従事するものとして

子どもの養育者として

地域社会の一員として また

世論の形成者として

□産業化の中での家庭の諸問題に
ついて 見つめてみる

□社会の動きをよく知り それに
即して 家庭の管理を弾力的に
行なう

□家庭 というものの意義 を
再認識する

□地域社会の また 日本全体の
家庭の しあわせについても
関心を持つ

視野を新たに 私たちの役わりを
考えてみましょう